

一般社団法人日本樹木医会 熊本県支部 5月定例会

令和8年（2026年）5月16日（土） 15：00～17：00

会場：熊本市国際交流会館 第二会議室

科目名：「トベラスス病の生物的防除について」 講師：大里楓加 樹木医 おおさと

対象者：樹木医及び樹木医補 CPD:2単位(予定)

主催：（一社）日本樹木医会熊本県支部 共催：（一社）熊本県樹木医会

研修内容

「トベラスス病の生物的防除」。大里さんが学生時代に研究されました。ミカンキジラミ防除方法を研究中に発見された新種の寄生菌を用いてトベラスス病の媒介虫であるトベラキジラミへの感染性を調べ、感染性が認められれば科学的防除に頼らず環境に優しい防除方法の確立が期待できる。という内容です。詳しく語っていただきます。

研修係より

トベラは熊本県内ではとても身近な緑化樹木です。初夏に白い花が咲き、秋には実が破開して赤い種子が目立つ特徴があり、至る所に自生もしくは植栽してあります。昔は枝を扉に挿して疫病退散を願った習わしがあり、「扉の木」の名がついたと言われていています。化学的防除に頼らない防除方法はトベラに限らず今後より発展すると思います。活発な意見交換を期待いたします。



トベラはアプローチに植栽してある場合が多い



すす病と思しき病徴